

キャンパス内において大学生が謝る場面で 使用することばとその選択基準

—日本語教育で提示することば「すみません」を考える—

皆川 晶

The Selection Criteria of Vocabulary

— In the Japanese Cases of Usage where College Students Apologize in the Campus —

by

Aki MINAGAWA

要 旨

キャンパス内において、大学生が謝る場面でどのようなことばを使用しているか。また、その選択基準について調査した。大学1年生を対象に、同学年、上級生、親しい相手、教員に対して、直接謝る場合とメールで謝る場合とを調査した。

対象が同学年や親しい相手では、「ごめん」「ごめんね」の使用が多く、親近語として認識されている。上級生や教員に対しては、「すいません」「すみません」の使用が多く、学生にとって敬意を表すことばとして認識されている。

直接に言う場合とメールの場合でも、ことばの選択に大きな違いはなかった。しかし、対象が教員の場合は、変化がみられ、より丁寧なことばが選択されていた。

よって、キャンパス内において、学生が謝る場面では、年齢や親疎の関係などで、ことばを使い分けていることがわかった。

Key Words: 謝罪、敬意、親疎の関係

はじめに

日本語では、謝罪を示すことばとして「すみません」という詫び表現が使われる。また、日本語学習者の教科書でも、この表現は始めの方で学習する。実際には、「すみません」のみならず、人間関係や場面などに応じて、「ごめん」「ごめんなさい」などの多様なことばが使われている。このようなことから、日本語学習

者である外国人大学生からの、キャンパス内において、日本人大学生と円滑なコミュニケーションをとるために、「すみません」「ごめん」「ごめんなさい」など多様にある詫び表現の中から、どれを選択するべきか、その選択基準をどこにおくべきかという問いに対して、ひとつの実態を示そうとするものである。

若者の詫び表現の使い方についての実証的研究に、三宅和子の研究『『詫び』以外で使われる詫び表現—その多様性の実態とウチ・ソト・ヨソの関係—』（『日本語教育』日本教育学会82

号1994)がある。大学生・大学院生を対象にアンケート調査を行い、相手の負担の量などの要因よりも相手との人間関係に影響をうけていることを分析している。

また、一般的な詫び表現である「すみません」が感謝の意味にも用いられている。日本語では、話し手と聞き手の心理的距離や社会的距離、話し手の心理状態などが言語行動に影響していることを考察した、山本もと子の研究「感謝の謝罪表現『すみません』—『すみません』が感謝と謝罪の両方の意味を持つわけ—」(『信州大学留学生センター紀要』第4号2003年)がある。

以上の先行研究は、詫び以外で使用される詫び表現が話し手、聞き手との間にある人間関係や心理状態が言語行動に影響していることを分析したものである。

本稿では、大学生がキャンパス内で、相手に生じる負担に対する謝罪をする際に、同学年、上級生、親しい相手、教員と円滑なコミュニケーションをはかろうとする際、多様にある詫び表現から、どのようなことばを使用し、その選択基準をどこにおくのか。また、直接会って謝罪する場合と、メールで謝罪する場合とでは、使用することばや選択基準に違いがあるのかを考察する。

1、調査にあたって

(1) 調査目的および調査日

キャンパス内において、大学生が謝る場面でどのようなことばを使用しているのか、その選択基準はどこにあるのかを見るために、2012年7月24～27日にかけてアンケート調査を実施した。

(2) 調査協力者

調査協力者は、福岡県飯塚市のK大学産業理工学部の1年生の男子学生216名、女子学生58名である。

(3) 調査表について

使用した調査表は次のとおりである。

○質問

キャンパス内で人に謝るとき、あなたは何と言いますか。直接目の前で言う場合と、メールの場合と答えてください。使用することばは次の中から選んで、アルファベットで答えてください。その際には、なぜそのことばを使うのかの理由も具体的に書いてください。

- A ごめん B ごめんね C ごめんなさい
D すまない E すまん F すいません
G すみません H 失礼しました
I 申しわけありません(ありませんでした)
J 申しわけございません(ございませんでした)
K その他(具体的に書いてください)

○調査項目

- (1) 同学年(同性、異性)に対して
(2) 上級生(同性、異性)に対して
(3) 特別に親しい(同性、異性)に対して
(4) 教員(同性、異性)に対して

2、調査結果

(1) — 1 同学年の同性に対して (男子学生)

(直接の場合)

同学年の同性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が、約63%(以下、約を省略する)であり、「すまん」が18%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。なお、選択理由についての記述がないものは、記載しない(以下も同様)。

A→149人

同学年だから16人、言いやすいから6人、気軽に話せるから3人、なんとなく3人、自然にできるから3人、軽めの表現だから2人、気を配らなくてもいいから2人、気持ちが伝わると思うから2人、友達だから1人、同じ立場だから1人、一番簡単な言い方だから1人、普段から使っているから1人、仲を悪くしたくないから1人、無意識で1人

B→17人

気軽に1人、フランクな感じで1人
 C→6人
 同学年だから2人、
 強すぎず弱すぎずちょうどいいから1人、
 失礼にならないように1人、
 D→6人
 気を使う必要がないから1人
 E→43人
 同学年だから3人、なんとなく2人、
 気を使わなくていいから2人、
 男の子だから1人、言いやすいから1人、
 慣れているから1人
 F→6人
 あまり親しくないから1人
 G→3人
 親しくないから1人、なんとなく1人、
 一般常識として1人
 H→0人
 I→1人
 性格上1人
 J→0人
 K→5人
 「わりー」2人→ フランクな感じで1人
 「悪い」1人
 「悪かった」1人
 「ごめんください」1人

(メールの場合)

同学年の同性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が56%、「すまん」が16%、「ごめんね」が13%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→128人
 同学年だから13人、なんとなく3人、
 気を使わなくていいから3人、
 気持ちが伝わると思うから2人、
 気軽に話せるから2人、同じ立場だから1人、
 フランクな感じで1人、言いやすいから1人、
 普段から使っているから1人、
 一番簡単な言い方だから1人、
 自然にできるから1人
 B→29人
 相手が不快にならないように1人、

気軽に1人、フランクな感じで1人、
 やわらかめの表現で1人、くせだから1人、
 言いやすいから1人、
 口で言うより少し丁寧になるから1人
 C→9人
 なんとなく1人、同学年だから1人、
 メールなので丁寧1人
 D→8人
 E→37人
 同学年だから4人、慣れているから1人、
 メールだと少し本心がでる1人、
 メールしやすいから1人、なんとなく1人、
 気を使わなくていいから1人、
 メールではフランクに1人、
 予測変換ですてくるから1人
 F→6人
 あまり親しくないから1人、
 メールは丁寧な方がいいから1人
 G→6人
 親しくないから1人、一般常識として1人、
 メールは丁寧な方がいいから1人
 H→1人
 I→0人
 J→0人
 K→3人
 「わりー」1人
 「ごめん」1人
 「悪い」1人

(1) - 2 同学年の同性に対して (女子学生)

(直接の場合)

同学年の同性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が45%、「ごめんね」が40%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→35人
 同学年だから10人、なんとなく2人、
 親しいから1人、言いやすいから1人、
 無意識で使っている1人
 B→31人
 同学年だから6人、なんとなく1人、
 軽く謝れるから1人、無意識にできる1人、

かしこまらなくていいから1人、
 気を使う必要がないから1人、
 堅苦しくないから1人

C→5人

D→0人

E→2人

F→2人

G→1人

同学年だから1人

H→0人

I→0人

J→0人

K→1人

「ごめん」1人

(メールの場合)

同学年の同性を対象とした場合、「ごめんね」を使用する学生が52%、「ごめん」が35%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→26人

同学年だから7人、なんとなく2人、
 親しいから1人、言いやすいから1人、
 「ごめんなさい」は幼稚に見えるから1人

B→39人

同学年だから9人、軽く謝れるから1人、
 かしこまらなくていいから1人、
 気を使う必要はないから1人、
 なんとなく1人

C→4人

同学年だから1人

D→0人

E→2人

F→1人

G→1人

同学年だから1人

H→1人

文章で書くから1人

I→0人

J→0人

K→1人

「ごめんね」1人→メールでは少しでも申しわけなさそうにしようとする1人

(2) — 1 同学年の異性に対して (男子学生)

(直接の場合)

同学年の異性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が55%、「ごめんね」が21%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→127人

同学年だから11人、言いやすいから4人、
 気を使わなくていいから3人、
 なんとなく3人、女の子だから2人、
 軽めの表現だから2人、自然にでる2人、
 気持ちが伝わると思うから2人、
 気軽に話せるから2人、同じ立場だから1人、
 一番簡単な言い方だから1人、
 フランクな感じで1人、
 普段から使っているから1人

B→48人

同学年だから3人、言いやすいから2人、
 女の子だから2人、フランクな感じで1人、
 相手が不快にならないように1人、
 異性にはやさしく1人、気軽に1人

C→10人

同学年だから2人、言いやすいから1人、
 機嫌を損ねたくないから1人、
 強すぎず弱すぎずちょうどいいから1人、
 失礼にならないように1人

D→5人

同学年だから1人

E→19人

同学年だから2人、言いやすいから1人、
 気を使わなくていいから1人、
 なんとなく1人

F→11人

あまり親しくないから1人、なんとなく1人

G→6人

親しくないから1人、一般常識として1人、
 女性が苦手なので1人、なんとなく1人、
 あまり話さないから1人

H→1人

I→0人

J→0人

K→3人

「わるい」2人→同学年だから1人

「めんど」1人

(メールの場合)

同学年の異性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が47%、「ごめんね」が26%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→104人

同学年だから8人、なんとなく3人、
気軽に話せるから2人、
フランクな感じで2人、
気持ちが伝わると思うから2人、
気を配らなくてもいいから2人、
普段から使っているから1人、
一番簡単な言い方だから1人、
同じ立場だから1人、自然にでる1人

B→58人

同学年だから4人、言いやすいから2人、
メールではフランクになる2人、
気を使わなくていいから1人、
自然にでる1人、女の子だから1人、
やわらかめの表現で1人、気軽に1人、
相手が不快にならないように1人、
口で言うより少し丁寧になるから1人、
くせになっている1人、
文字なので「ね」をつけてやわらかく1人

C→17人

同学年だから2人、なんとなく2人、
きちんと謝れるから1人、
メールなので丁寧に1人

D→6人

同学年だから1人

E→16人

同学年だから1人、なんとなく1人、
気を使わなくていいから1人、
慣れているから1人

F→8人

あまり親しくないから1人、
メールは丁寧な方がいいから1人

G→7人

親しくないから1人、一般常識として1人

H→1人

I→1人

J→0人

K→2人

「わるい」2人→同学年だから1人

(2) -2 同学年の異性に対して (女子学生)

(直接の場合)

同学年の異性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が47%であり、「ごめんね」が35%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→34人

同学年だから9人、なんとなく2人、
親しいから1人、言いやすいから1人

B→25人

同学年だから5人、なんとなく1人、
軽く謝れるから1人、堅苦しくないから1人、
かしこまらなくていいから1人、
気を使う必要はないから1人

C→8人

同学年だから1人、
「すみません」は、かたすぎるから1人

D→0人

E→2人

F→1人

G→1人

同学年だから1人

H→0人

I→0人

J→0人

K→1人

「ごめん」1人

(メールの場合)

同学年の異性を対象とした場合、「ごめんね」を使用する学生が44%であり、「ごめん」が38%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→27人

同学年だから7人、なんとなく2人、
親しいから1人、言いやすいから1人

B→31人

同学年だから7人、軽く謝れるから1人、
かしこまらなくていいから1人、
気を使う必要がないから1人、
なんとなく1人

C→7人

同学年だから2人、
「ごめん」は距離が近すぎるから1人

D→0人

E→2人

F→1人

G→1人

同学年だから1人

H→1人

文章で書くから1人

I→0人

J→0人

K→1人

「ごめんね」1人→メールでは少しでも申しわけなさそうにしようとするから1人

(3) — 1 上級生の同性に対して (男子学生)

(直接の場合)

上級生の同性を対象とした場合、「すいません」を使用する学生が46%であり、「すみません」が35%であった。同学年への使用が多かった「ごめん」は3%と少なかった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→7人

なんとなく1人

B→3人

C→17人

年上だから1人、敬意があるから1人、
丁寧だから1人、
強すぎず弱すぎずちょうどいいから1人、
ちゃんとした謝罪をしないといけないから1人

D→0人

E→0人

F→105人

年上だから14人、先輩だから6人、
なんとなく3人、言いやすいから2人、

自然にできる2人、失礼のないように2人、
気軽に話しかけられないから1人、
相手が不快にならないように1人、
違和感のない丁寧なことばだから1人、
それほどかしこまらないから1人

G→78人

年上だから10人、先輩だから2人、
なんとなく2人、敬意を示す1人、
簡潔だから1人、常識的に考えて1人、
敬語を使わないといけないから1人、
一般的だから1人、礼儀だから1人、
丁寧なことばにしようとするから1人、
かたすぎない表現1人、気を使うから1人、
きちんと謝れるから1人、
失礼のない言い方だから1人

H→6人

年上だから2人、一般常識として1人

I→6人

上級生だから1人、性格上1人

J→4人

年上だから1人

K→0人

(メールの場合)

上級生の同性を対象とした場合、「すいません」を使用する学生が39%であり、「すみません」が37%であった。同学年への使用が多かった「ごめん」は3%と少なかった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→6人

なんとなく1人

B→1人

C→18人

なんとなく2人、敬意があるから1人、
メールなので丁寧に1人

D→0人

E→0人

F→85人

年上だから9人、先輩だから5人、
なんとなく2人、失礼のないように1人、
気軽に話しかけられないから1人、
相手が不快にならないように1人、
それほどかしこまらない1人、

- メールは丁寧な方がいいから1人、
自然にできる1人
G→82人
年上だから11人、
丁寧なことばにしようとするから2人、
堅苦しくない程度でよい感じだから2人、
敬語を使わないといけないから1人、
失礼のない言い方だから1人、
きちんと謝れるから1人、なんとなく1人、
口で言うより少し丁寧になるから1人、
一般的だから1人
H→10人
一般常識として1人、年上だから1人、
メールなので丁寧に1人、
あまり重すぎないように1人
I→10人
メールなので丁寧に1人、年上だから1人、
上級生だから1人、
文章で謝るのと同義と思っているから1人
J→5人
同学年だから1人
K→3人
「すみませんでした」3人→丁寧だから1人

(3) — 2 上級生の同性に対して (女子学生)

(直接の場合)

- 上級生の同性を対象とした場合、「すみません」を使用する学生が48%であり、「すいません」が39%であった。同学年への使用が多かった「ごめん」「ごめんね」の使用は全くなかった。選択理由を見てみると、次のとおりである。
A→0人
B→0人
C→6人
年上だから2人、先輩だから1人
D→0人
E→0人
F→24人
年上だから7人、先輩だから2人、
敬語を使うから1人、なんとなく1人
G→30人
年上だから9人、先輩だから敬語を使う1人、

- 「申しわけありません」では、ちょっと堅苦しいから1人、
「申しわけございません」では、距離が遠いから1人
H→0人
I→1人
年上だから1人
J→0人
K→1人
「本当にすみません」1人

(メールの場合)

- 上級生の同性を対象とした場合、「すみません」を使用する学生が58%であり、「すいません」が25%であった。同学年への使用が多かった「ごめん」の使用はなく、「ごめんね」は2%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。
A→0人
B→1人
C→5人
年上だから2人、先輩だから1人
D→0人
E→0人
F→15人
年上だから5人、先輩だから2人、
敬語を使うから1人、
メールは気を使うから1人
G→34人
年上だから8人、メールは気を使うから1人、
なるべく失礼のないように1人、
なんとなく1人、
「申しわけありません」では、距離が遠いから1人
H→0人
I→2人
年上だから2人
J→0人
K→2人
「本当にすみません」1人
「すいません」1人→メールでは少しでも申しわけなさそうにしようとするから1人

(4) ー1 上級生の異性に対して
(男子学生)

(直接の場合)

上級生の異性を対象とした場合、「すみません」を使用する学生が43%であり、「すみません」が36%であった。同学年への使用が多かった「ごめん」は4%、「ごめんね」は2%と少なかった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→8人

なんとなく1人

B→5人

女性だから1人

C→14人

年上だから1人、敬意があるから1人、

丁寧だから1人、

強すぎず弱すぎずちょうどいいから1人

D→0人

E→1人

F→95人

年上だから12人、先輩だから6人、
なんとなく3人、失礼のないように2人、
自然にできる2人、言いやすいから2人、
気軽に話しかけられないから1人、
相手が不快にならないように1人、
違和感のない丁寧なことばだから1人、
それほどかしこまらない1人

G→78人

年上だから10人、先輩だから2人、
なんとなく2人、敬意を示す1人、
礼儀だから1人、簡潔だから1人、
敬語を使わないといけないから1人、
かたすぎない表現だから1人、
失礼のない言い方だから1人、
きちんと謝れるから1人、一般的だから1人、
丁寧なことばにしようとするから1人、
ちゃんとした謝罪をしないとけないから1人、
口を使うから1人

H→7人

年上だから2人、一般常識として1人

I→7人

上級生だから1人、性格上1人

J→4人

上級生だから1人

K→0人

(メールの場合)

上級生の異性を対象とした場合、「すみません」を使用する学生が38%であり、「すみません」が35%であった。同学年への使用が多かった「ごめん」は2%、「ごめんね」は3%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→5人

なんとなく1人

B→6人

女性だから1人

C→16人

なんとなく2人、敬意があるから1人、

メールなので丁寧な1人

D→0人

E→3人

F→75人

年上だから8人、先輩だから5人、
なんとなく2人、失礼のないように1人、
気軽に話しかけられないから1人、
相手が不快にならないように1人、
メールは丁寧な方がいいから1人、
それほどかしこまらない1人、
自然にできる1人

G→80人

年上だから10人、
丁寧なことばにしようとするから2人、
堅苦しくない程度でよい感じだから2人、
口を使うから1人、一般的だから1人、
失礼のない言い方だから1人、
きちんと謝れるから1人、なんとなく1人、
敬語を使わないといけないから1人、
ちゃんとした謝罪をしないとけないから1人、
口で言うより少し丁寧になるから1人

H→11人

一般常識として1人、
メールなので丁寧な1人、
あまり重すぎないように1人

I→10人

上級生だから1人、メールなので丁寧に1人、
文章で謝ると同義と思っているから1人

J→5人

上級生だから1人

K→2人

「すみませんでした」2人→丁寧に1人

(4) — 2 上級生の異性に対して (女子学生)

(直接の場合)

上級生の異性を対象とした場合、「すみません」を使用する学生が52%であり、「すいません」が32%であった。同学年への使用が多かった「ごめん」は2%、「ごめんね」の使用はなかった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→1人

仲がいいから1人

B→0人

C→7人

年上だから2人、先輩だから1人

D→0人

E→0人

F→19人

年上だから5人、先輩だから2人、
敬語を使うから1人、なんとなく1人

G→31人

年上だから10人、仲がいいから1人、
先輩だから敬語を使う1人、
「申しわけありません」では、ちょっと堅苦しいから1人、
「申しわけございません」では、距離が遠いから1人

H→0人

I→1人

年上だから1人

J→0人

K→1人

「本当にすみません」1人

(メールの場合)

上級生の異性を対象とした場合、「すみませ

ん」を使用する学生が54%であり、「すいません」が22%であった。同学年への使用が多かった「ごめんね」、「ごめん」はともに2%未満であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→1人

仲がいいから1人

B→1人

C→7人

D→0人

E→0人

F→13人

年上だから5人、先輩だから2人、
敬語を使うから1人、
メールは気を使うから1人

G→32人

年上だから7人、仲がいいから1人、
なるべく失礼のないように1人、
メールは気を使うから1人、なんとなく1人、
「申しわけありません」では、距離が遠いから1人

H→1人

年上だから1人

I→2人

年上だから2人

J→0人

K→2人

「本当にすみません」1人

「すいません」1人→メールでは少しでも申しわけなさそうにしようとする1人

(5) — 1 特別に親しい同性に対して (男子学生)

(直接の場合)

特別に親しい同性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が53%であり、「すまん」が24%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→123人

親しいから10人、気軽に話せるから3人、
仲がいいから3人、言いやすいから3人、
気を使わなくていいから2人、無意識で1人、
フランクな感じで1人、なんとなく1人、

- 普段から使っているから1人、
一番簡単な言い方だから1人、
やさしいイメージがあるから1人、
同じ立場だから1人、同学年だから1人、
あまりにも深々と謝ると逆に面倒と思われる
から1人
- B→17人
堅苦しくならないように1人、気軽に1人、
何も気にせずに話せる仲だから1人、
仲がいいから1人
- C→6人
親しいから2人
- D→8人
親しいから1人、自然にできる1人
- E→55人
親しいから7人、軽い表現だから2人、
同学年だから1人、仲がいいから1人、
気を使わなくてもいいから1人、
なんとなく1人、慣れているから1人、
自然な感じがするから1人、
この一言で十分1人、
「すまんな→ええんやで」の気持ちのよいや
りとり1人
- F→5人
親しみをこめて1人
- G→2人
- H→2人
- I→1人
親しき仲にも礼儀ありだから1人
- J→1人
相手が不快にならないように1人
- K→12人
「わりー」6人→親しいから2人、
 なんとなく1人、
 フランクな感じで1人
「悪い」3人
「すまんすまん」1人
「めんご」1人→親しいから1人
「I'm sorry」1人
- (メールの場合)
特別に親しい同性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が56%であり、「すまん
- が21%であった。選択理由を見てみると、次の
とおりである。
A→121人
親しいから10人、気軽に話せるから2人、
仲がいいから2人、言いやすいから2人、
フランクな感じで2人、自然にできる1人、
同学年だから1人、なんとなく1人、
気を使わなくていいから1人、無意識で1人、
普段から使っているから1人、
同じ立場だから1人、
やさしく感じるから1人、
一番簡単な言い方だから1人、
「すまん」より少し丁寧だから1人、
あまりにも深々と謝ると逆に面倒と思われ
るから1人
- B→24人
親しいから1人、気軽に1人、
何も気にせずに話せる仲だから1人、
文字なので「ね」をつけてやわらかく1人
- C→7人
親しいから1人、なんとなく1人
- D→7人
親しいから1人
- E→46人
親しいから4人、仲がいいから2人、
慣れているから2人、なんとなく2人、
気を使わなくてもいいから1人、
自然な感じがするから1人、
メールではフランクに1人、
同学年だから1人、
「すまんな→ええんやで」の気持ちのよいや
りとり1人
- F→5人
親しみをこめて1人、
メールは丁寧な方がいいから1人
- G→3人
- H→0人
- I→1人
親しくても年上なので1人
- J→1人
相手が不快にならないように1人
- K→3人
「悪い」2人

「わりー」 1人

(5) — 2 特別に親しい同性に対して
(女子学生)

(直接の場合)

特別に親しい同性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が41%であり、「ごめんね」が37%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→37人

親しい仲だから6人、仲がいいから3人、
なんとなく2人、気を使わないから1人、
気を許しているから1人、
言いやすいから1人、
何でも話せるから敬語を使わない1人

B→23人

仲がいいから3人、親しいから2人、
かしまらなくていいから1人、
同学年だから1人、なんとなく1人

C→2人

D→1人

E→5人

仲がいいから1人

F→1人

G→0人

H→0人

I→1人

J→0人

K→2人

「方言で言う」 1人

「ごめん、ごめん」 1人

(メールの場合)

特別に親しい同性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が41%であり、「ごめんね」が37%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→29人

親しいから4人、仲がいいから3人、
なんとなく2人、言いやすいから1人、
気を許しているから1人、
言いやすいから1人、
「ごめん」以外使わないから1人

B→26人

親しい仲だから2人、仲がいいから2人、
かしまらなくていいから1人、
なんとなく1人、同学年だから1人

C→4人

親しいから1人

D→2人

文章で書くから1人

E→4人

F→0人

G→1人

「ごめん」は軽くみえるから1人

H→0人

I→0人

J→0人

K→4人

「方言で言う」 1人

「まじでごめん！本当に申しわけない!!」 1人
→許してもらおう気マンマンのため過剰に言う1人

「ごめん、ごめん」 1人

「ごめん (>人<)」 1人

(6) — 1 特別に親しい異性に対して
(男子学生)

(直接の場合)

特別に親しい異性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が56%であり、「すまん」が18%、「ごめんね」が15%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→121人

親しいから9人、仲がいいから4人、
気軽に話せるから3人、なんとなく2人、
フランクな感じで2人、自然にでる2人、
気を使わなくていいから2人、
言いやすいから2人、同学年だから1人、
普段から使っているから1人、
一番簡単な言い方だから1人、
同じ立場だから1人、慣れているから1人、
あまりにも深々と謝ると逆に面倒と思われるから1人

B→32人

親しいから2人、仲がいいから1人、

何も気にせずに話せる仲だから 1人、
異性であるため少し気を使うから 1人、
堅苦しくないように 1人、気軽に 1人、
やさしいイメージがあるから 1人、
自然な感じがするから 1人、
言いやすいから 1人

C→7人

親しいから 3人、軽い言い方になる 1人

D→3人

親しいから 1人

E→39人

親しいから 4人、仲がいいから 1人、
気を使わなくてもいいから 1人、
この一言で十分 1人、なんとなく 1人、
同学年だから 1人、
「すまん→ええんやで」の気持ちのよいや
りとり 1人

F→7人

親しみをこめて 1人

G→2人

H→0人

I→0人

J→1人

相手が不快にならないように 1人

K→4人

「わりー」 1人

「悪い」 1人

「ごめん」 1人

「ごめんちゃい」 1人

(メールの場合)

特別に親しい異性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が49%であり、「ごめんね」23%であり、「すまん」が15%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→103人

親しいから 7人、フランクな感じで 3人、
気軽に話せるから 3人、仲がいいから 3人、
普段から使っているから 1人、
言いやすいから 1人、同じ立場だから 1人、
なんとなく 1人、同学年だから 1人、
一番簡単な言い方だから 1人、
気を使わなくていいから 1人、

慣れているから 1人、自然にでる 1人、
あまりにも深々と謝ると逆に面倒と思われる
から 1人

B→49人

親しいから 4人、やさしく感じるから 1人、
自然な感じがするから 1人、気軽に 1人、
「ごめん」より少し丁寧に 1人、
何も気にせずに話せる仲だから 1人、
異性であるため少し気を使うから 1人、
文字なので「ね」をつけてやわらかく 1人、
言いやすいから 1人

C→8人

親しいから 1人、なんとなく 1人

D→4人

親しいから 1人

E→31人

親しいから 2人、なんとなく 2人、
同学年だから 1人、仲がいいから 1人、
気を使わなくていいから 1人、
「すまん→ええんやで」の気持ちのよいや
りとり 1人

F→6人

親しみをこめて 1人、
メールは丁寧な方がいいから 1人

G→3人

H→0人

I→1人

J→2人

相手が不快にならないように 1人

K→3人

「わりー」 1人

「すまんかったわー」 1人

「悪い」 1人

(6) — 2 特別に親しい異性に対して (女子学生)

(直接の場合)

特別に親しい異性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が55%であり、「ごめんね」が33%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→37人

親しい仲だから 10人、なんとなく 2人、

気を許しているから1人、
 言いやすいから1人、気を使わないから1人
 B→22人
 仲がいいから2人、親しいから2人、
 かしこまらなくていいから1人、
 なんとなく1人、同学年だから1人

C→3人
 仲がいいから1人
 D→1人
 E→2人
 F→1人
 G→0人
 H→0人
 I→0人
 J→0人
 K→1人
 「ごめーん」2人

(メールの場合)

特別に親しい異性を対象とした場合、「ごめん」を使用する学生が49%であり、「ごめんね」が37%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→33人
 親しいから4人、仲がいいから3人、
 なんとなく2人、言いやすいから1人、
 気を許しているから1人、
 気を使わないから1人、
 「ごめん」以外使わないから1人
 B→25人
 仲がいいから2人、なんとなく1人、
 親しい仲だから1人、文章で書くから1人、
 かしこまらなくていいから1人、
 親しいから1人、同学年だから1人
 C→4人
 親しいから1人、
 「ごめん」は軽く見えるから1人
 D→1人
 E→2人
 F→0人
 G→1人
 「ごめん」は軽く見えるから1人
 H→0人

I→0人
 J→0人
 K→2人
 「ごめーん」1人
 「ごめんね」1人

(7) — 1 教員(同性)に対して
 (男子学生)

(直接の場合)

教員の同性を対象とした場合、「すみません」を使用する学生が30%であり、「すいません」が28%であった。他の対象にはほとんど使用しなかった「申しわけありません(ありませんでした)」が14%、「失礼しました」が13%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→0人
 B→0人
 C→8人
 丁寧だから1人、
 くれた表現ではないから1人
 D→0人
 E→0人
 F→63人
 年上だから7人、教員だから4人、
 気軽に話しかけられないから1人、
 格上だから1人、当然だから1人、
 なんとなく1人
 G→67人
 年上だから9人、教員だから3人、
 失礼のないように2人、言いやすいから1人、
 丁寧なことばにしようとするから1人、
 一般的だから1人、敬意を示す1人、
 礼儀は大切だから1人、なんとなく1人、
 くれた表現ではないから1人、
 当たり前1人
 H→29人
 年上だから3人、
 敬語を使った方がいいから2人、
 相手が不快にならないように1人、
 大人だから1人、教員だから1人、
 自分より地位が上だから1人、
 一般常識として1人

I→32人

年上だから3人、かたい表現だから1人、
 気を使わないといけないから1人、
 教員だから1人、当たり前1人

J→20人

年上だから3人、教員だから1人、
 気を使わないといけないから1人、
 敬意を表さないといけないから1人、
 自然にでる1人、立場上1人

K→4人

「すみませんでした」3人→年上だから1人
 「すいませんでした」1人

(メールの場合)

教員の同性を対象とした場合、「申しわけありません(ありませんでした)」を使用する学生が26%であり、「すみません」が22%、「すいません」が20%、「失礼しました」「申しわけございません(ございませんでした)」がともに13%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→0人

B→0人

C→5人

D→0人

E→1人

F→33人

年上だから4人、教員だから2人、
 気軽に話しかけられないから1人、
 メールは丁寧な方がいいから1人、
 格上だから1人、なんとなく1人

G→37人

年上だから2人、教員だから1人、
 立場上1人、なんとなく1人

H→22人

一般常識として1人、大人だから1人、
 相手が不快にならないように1人、
 敬語を使わないといけないから1人、
 メールでは特に礼儀正しくしたいから1人

I→43人

年上だから6人、丁寧だから3人、
 文字で表わしても相手に失礼のないように
 するため2人、当たり前2人、

メールでは表情が見えず伝わりにくいから1
 人、
 気を使わないといけないから1人

J→22人

年上だから2人、教員だから1人、
 ことばを選ぶ時間があるから1人、
 気を使わないといけないから1人、
 敬意を表さないといけないから1人、
 自然にでる1人

K→3人

「すみませんでした」2人
 「すいませんでした」1人

(7) —2 教員(同性)に対して (女子学生)

(直接の場合)

教員の同性を対象とした場合、「すみません」を使用する学生が40%であり、「すいません」が27%、「申しわけありません(ありませんでした)」が20%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→0人

B→0人

C→2人

年上だから1人

D→0人

E→0人

F→17人

年上だから6人、先生だから3人

G→26人

年上だから5人、先生だから2人、
 失礼がないようにするため1人

H→4人

年上だから2人

I→13人

年上だから2人、先生だから2人、
 年上の人には妥当だから1人、
 年上だから敬語を使う1人、
 尊敬する相手だから1人

J→2人

年上だから1人

K→0人

(メールの場合)

教員の同性を対象とした場合、「すみません」を使用する学生が36%であり、「申しわけありません(ありませんでした)」が28%、「すいません」が23%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→0人

B→0人

C→0人

D→0人

E→0人

F→9人

年上だから4人、先生だから2人

G→14人

H→1人

年上だから1人

I→11人

年上だから2人、年上の人には妥当だから1人

J→4人

年上だから1人、先生だから1人

K→0人

(8) — 1 教員(異性)に対して
(男子学生)

(直接の場合)

教員の異性を対象とした場合、「すみません」を使用する学生が31%であり、「すいません」が28%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→0人

B→0人

C→8人

丁寧だから1人、

くだけた表現ではないから1人

D→0人

E→0人

F→63人

年上だから7人、教員だから4人、

気軽に話しかけられないから1人、

なんとなく1人、当然だから1人、

格上だから1人

G→69人

年上だから8人、教員だから3人、失礼のないようにするため2人、立場上1人、言いやすいから1人、くだけた表現ではないから1人、敬意を示す1人、礼儀は大切だから1人、一般的だから1人、当たり前1人、なんとなく1人

H→27人

年上だから3人、教員だから1人、相手が不快にならないように1人、自分よりも地位が高いから1人、大人だから1人、一般常識として1人、敬語を使わないといけないから1人

I→32人

年上だから3人、かたい表現だから1人、気を使わないといけないから1人、教員だから1人、当たり前1人

J→20人

年上だから3人、教員だから1人、敬語を使った方がいいから1人、敬意を表さないといけないから1人、気を使わないといけないから1人、自然にでる1人

K→4人

「すみませんでした」3人→年上だから1人

「すいませんでした」1人

(メールの場合)

教員の異性を対象とした場合、「申しわけありません(ありませんでした)」を使用する学生が25%であり、「すみません」が22%、「すいません」が20%であった。選択理由を見てみると、次のとおりである。

A→0人

B→0人

C→5人

D→0人

E→1人

F→33人

年上だから4人、教員だから2人、

気軽に話しかけられないから1人、

メールは丁寧な方がいいから1人、

格上だから1人、なんとなく1人

G→37人

年上だから2人、教員だから1人、
立场上1人、なんとなく1人

H→22人

大人だから1人、一般常識として1人、
相手が不快にならないように1人、
敬語を使わないといけないから1人、
メールでは特に礼儀正しくしたいから1人

I→42人

年上だから6人、丁寧だから3人、
文字で表わしても相手に失礼のないように
するため2人、当たり前2人、
気を使わないといけないから1人、
メールでは表情が見えず伝わりにくいから1
人

J→23人

年上だから2人、教員だから1人、
言葉を選ぶ時間があるから1人、
敬意を表わさないといけないから1人、
気を使わないといけないから1人、
自然にでる1人

K→3人

「すみませんでした」2人
「すみませんでした」1人

(8) — 2 教員(異性)に対して (女子学生)

(直接の場合)

教員の異性を対象とした場合、「すみませ
ん」を使用する学生が41%であり、「すいませ
ん」が27%、「申しわけありません(ありませ
んでした)」が20%であった。選択理由を見て
みると、次のとおりである。

A→0人

B→0人

C→2人

年上だから1人

D→0人

E→0人

F→17人

年上だから6人、先生だから3人

G→26人

年上だから5人、先生だから2人、

失礼のないようにするため1人

H→4人

年上だから2人

I→13人

年上だから2人、先生だから2人、
年上の人には妥当だから1人、
年上だから敬語を使う1人、
尊敬する相手だから1人

J→2人

年上だから2人

K→0人

(メールの場合)

教員の異性を対象とした場合、「すみませ
ん」を使用する学生が35%であり、「申しわけ
ありません(ありませんでした)」が29%、「す
いません」が21%であった。選択理由を見てみ
ると、次のとおりである。

A→0人

B→0人

C→1人

年上だから1人

D→0人

E→0人

F→9人

年上だから4人、先生だから2人

G→15人

年上だから1人

H→1人

年上だから1人

I→12人

年上だから3人、年上の人には妥当だから1
人

J→4人

年上だから1人、先生だから1人

K→0人

3、調査から見てきたもの

(1) 同学年の同性の場合

男子学生は、直接・メールどちらの場合も圧
倒的に「ごめん」の使用が多く、次に多い「す
まん」の使用は20%未満である。女子学生の使

用が多い「ごめんね」は、直接の場合は7%であるが、メールの場合は13%と高くなる。理由として「やわらかめの表現で」「丁寧になるから」「相手が不快にならないように」と、顔が見えないので、相手への気遣いがうかがえる。

女子学生は、直接・メールどちらの場合も「ごめん」「ごめんね」の使用が多い。直接の場合、「ごめん」「ごめんね」の使用は5%しか違いはなかったが、メールの場合、「ごめん」より「ごめんね」の使用が17%も多くなっている。これも男子学生同様相手への気遣いととれるが、それを思わせるような選択理由はなかった。

(2) 同学年の異性の場合

男子学生は、直接・メールどちらの場合も圧倒的に「ごめん」の使用が多い。対同性では「すまん」の使用が20%ほどあったが、対異性になると10%未満になり、「ごめんね」の使用が20%以上になった。選択理由では、「異性にはやさしく」「女の子だから」「やわらかめの表現で」とあり、異性への意識、気遣いがうかがえる。

女子学生は、直接・メールどちらの場合も「ごめん」「ごめんね」の使用が多い。わずかではあるが、メールの場合、「ごめん」よりも「ごめんね」の使用が多くなっている。「かしこまらなくていいから」「気を使う必要がないから」と、対同性のときと選択理由は同じであった。

よって、男子学生には、女子学生に対する気遣いがあったが、女子学生は同性、異性の区別なくことばを使用しているようである。

(3) 上級生の同性の場合

男子学生は、直接・メールどちらの場合も「すいません」「すみません」が80%近く使用されている。「年上だから」「先輩だから」という選択理由に加え、「失礼のないように」「丁寧なことばだから」「敬語を使わないといけないから」と、両表現が学生にとって敬語であることがわかる。同学年への使用が多かった「ごめん」は3%であった。

女子学生は、直接・メールどちらの場合も「すみません」「すいません」の使用が80%を超えた。「年上だから」「先輩だから敬語を使う」という理由から、男子学生と同様、両表現は学生にとって敬語であることがわかる。同学年への使用が多かった「ごめん」「ごめんね」の使用はほとんどなかった。

(4) 上級生の異性の場合

男子学生は、直接・メールどちらの場合も「すいません」「すみません」の使用が70%を超えた。「年上だから」「先輩だから」という選択理由に加え、「失礼のないように」「敬意を示す」「礼儀だから」という選択理由から、両表現が学生にとって敬語であることがわかる。同学年への使用が多かった「ごめん」はわずかであった。

女子学生は、直接・メールどちらの場合も「すみません」の使用が50%を超えた。「年上だから」という選択理由が多く、「失礼のないように」「先輩だから敬語を使う」など、「すみません」は、学生にとって敬語であることがわかる。同学年への使用が多かった「ごめん」「ごめんね」はわずかであった。

(5) 特別に親しい同性の場合

男子学生は、直接・メールどちらの場合も「ごめん」の使用が50%を超えた。「すまん」が次に多かった。「気を使わなくていいから」「仲がいいから」という選択理由からもうかがえるように、親しい間柄なのでくれた表現が使われていることがわかる。

女子学生は直接・メールどちらの場合も「ごめん」「ごめんね」の使用が78%であり、「親しいから」「仲がいいから」「気を許しているから」という選択理由であった。

親しい相手でも男子学生の中には、「親しい仲にも礼儀ありだから」「相手が不快にならないように」という選択理由から、「すいません」「すみません」「申しわけありません」などの、学生にとっての敬語表現を使用する学生もいた。しかし、女子学生は「すいません」「すみません」「失礼しました」「申しわけありませ

ん」などの使用がほとんどなかった。

(6) 特別に親しい異性の場合

男子学生は、直接・メールどちらの場合も「ごめん」の使用が圧倒的に多かった。「親しいから」「気軽に話せるから」「仲がいいから」という選択理由であった。対同性の場合と同様、わずかではあるが、学生にとっての敬語表現の使用があった。

女子学生は、直接・メールどちらの場合も「ごめん」の使用が50%ほどあり、次に「ごめんね」が多かった。「親しいから」「仲がいいから」という選択理由であった。対同性の場合と同様、学生にとっての敬語表現の使用はほとんどなかった。

(7) 教員（同性）の場合

男子学生は、直接の場合、「すみません」「すいません」の使用が58%であるが、「申しわけありません（ありませんでした）」「失礼しました」が27%使用されている。メールの場合、「申しわけありません（ありませんでした）」の使用が26%で一番多かった。「失礼のないように」「メールでは表情が見えず伝わりにくいから」という選択理由であった。「ごめん」「ごめんね」の使用はなかった。

女子学生は、直接・メールどちらの場合も「すみません」「すいません」の使用が多かったが、他の対象ではほとんど使用されなかった。「申しわけありません（ありませんでした）」の使用が目立った。「年上だから」「先生だから」という選択理由から、教員に対する敬意がうかがえる。「ごめん」「ごめんね」の使用はなかった。

(8) 教員（異性）の場合

男子学生は、直接の場合、「すみません」「すいません」の使用が60%であった。メールの場合、「申しわけありません（ありませんでした）」の使用が25%あり、他の対象では使用が少なかった。「失礼しました」は13%であった。「丁寧だから」「文字で表わしても相手へ失礼のないようにするため」「メールでは表情が見

えず伝わりにくいから」という選択理由から、教員に対する敬意、気遣いがうかがえる。

女子学生は、直接・メールどちらの場合も、「すみません」「すいません」「申しわけありません（ありませんでした）」の使用が80%を超えた。「年上だから」「先生だから」という選択理由から、教員に対する敬意がうかがえる。対同性同様、「ごめん」「ごめんね」の使用はなかった。

おわりに

学生にとっては、メールはひじょうに身近な伝達手段であるので、調査をする前の予想では、直接謝るときよりもメールで謝るときの方が、気軽な表現をしようと思っていた。しかし、対象が同学年、上級生、特別に親しい関係、教員でも表現の使い分けはほとんどなく、「顔をあわせないから」「丁寧な方がいいから」という理由から、メールの方が丁寧に表現していることがわかった。

男子学生にとって、「ごめん」「すまん」、女子学生にとって、「ごめん」「ごめんね」は、「同学年だから」「親しいから」という選択理由からもうかがえるように、親近語として認識されていることがわかった。また、「すみません」「すみません」は、男女共に、上級生、教員に対して多く使用され、「年上だから」「失礼のないように」という選択理由からうかがえるように、両表現が学生にとって敬語であることがわかった。さらに、教員に対しては両表現に加え、「失礼しました」「申しわけありません（ありませんでした）」の使用も多かった。選択理由に、「敬語を使わないといけないから」「気を使わないといけないから」とあり、より丁寧なことを使わないといけないという意識が働いている。学生の心理状態、教員と学生という社会的距離が影響していると考えられる。

これらのことから、学生は謝る場面でも、親疎の関係、年齢差、性差、立場の関係、敬意を感じているかが使い分けの基準になっていることがわかる。本稿では、キャンパス内に限ってであるが、大学生が謝る場面で使用することば

の実態を明らかにすることができたと思う。

日本語学習者には教科書において、詫び表現として「すみません」が示される。しかしながら、キャンパス内における実際のコミュニケーションにおいては、「ごめん」「ごめんね」「ごめんなさい」「すまん」「申しわけありません」「失礼しました」など、多様な表現が人間関係やおかれている立場に応じて使用されている。詫び表現に係る情報を提示するには、日本語学習者のより円滑なコミュニケーション力を養成するためにも、個々の学習者のおかれた環境に配慮しながら柔軟性のある教育を実践していくことが望まれる。

参考文献

- 1) 日本語記述文法研究会『現代日本語文法 7』2009年6月
- 2) 沖森卓也編『日本語ライブラリー 語と語彙』2012年5月